



原点 に立って、 未来 へステップ

2015-2016 年度
東日本区理事通信
第 5 号
2015年11月5日発行

■今月の強調目標

ワイズ理解
FF(ファミリーファスト)

理事メッセージ 東日本区理事 渡辺 隆

今月「ワイズ理解」そして「ファミリーファスト」月間です。前ヒストリアンの吉田明弘さんが書かれたヒストリアンズ・ビューNo.18に、11月10日の「ワイズデー」について、次のように書かれています。

『1928年11月10日に、大阪クラブが日本で初めてワイズメンズクラブ国際協会に加盟したことを記念したものです。毎年この日を中心に全国のワイズメンが一斉に行動を起こすことによって、外部に対しPR活動を行うとともに内部に向けては、クラブの団結、融和をはかることが提案趣旨でした。実際の活動内容は、各クラブの地域性、特色を考慮して、クラブ、部に一任するという内容です。そして、この年の11月10日の第1回ワイズデーでは、区が全国的にファミリーファスト(FF)を行うことが提唱されました。』

例えば、東日本区すべてのクラブで日にちを決めて、それぞれの地域の街頭で一般の方々に「ワイズ知っていますか?」、「YMCA知っていますか?」の「ワイ

ズ理解」のキャンペーンは如何でしょうか。地域社会での「ワイズ・YMCA理解」運動の現実を見つめることが出来るかもしれません。そして、新たなワイズの進むべき道が考えられるかもしれません。次年度は東日本区創立20年になり、この間いくつもの大きな災害を経験しました。また、東日本区内でも大震災(不祥事)がありました。残すものは大事にし、変えるべきものは勇気をもって変えていく時かもしれません。東日本区には文献組織検討委員会があり、組織の見直しなど、精力的に委員会が開催され、区の運営に無くてはならない役割を果たしています。また、この委員会には加えて「定款見直しワーキングチーム」があり、二年目を迎え将来に向けた組織の充実に活動をお願いしています。

年4回開催されます東日本区役員会では、議案の審議に加え、今年度から役員(部長・事業主任等)の皆さんの「協議」の場を設けてあります。

ワイズでの疑問・御意見など、クラブ又は部内で解決できないことなどをこの協議の場で意見交換をさせていただきます。ぜひ、積極的にワイズ活動に御意見ををお願いします。

強調 目標

11月FF強調月間に寄せて

地域奉仕事業主任 相川 達男

ワイズメンズクラブの世界的な用語となっているTOF(Time of Fast)は「断食の時」とも呼ばれ、世界の飢餓に苦しむ人々のために例会の食事を抜き、その分の金額を献金するというものですが、それに対してFF(Family Fast)は日本独自のもので、メンバーのご家庭で1回の食事を節食していただき、1ファミリー500円の献金をお願いするものです。このFF献金で皆様から集めさせていただいた資金は、もともと国際協会がUGP(Unified Global Project)の一環として行っていたSTOP!HIV/AIDSの活動を東日本区内において継続するために使用されます。現在、東日本区内においては横浜YMCAが中心となって取り組んでいる「AIDS文化フォーラムin横浜」に関係クラブが支援をする際に資金の一部を補助しています。日本、世界においてHIV/AIDSの感染者数は未だに増加傾向にあり深刻な問題として続いています。世界各地では、様々な感染症が報告されエボラ熱などのように今まで聞いたこともないような新たなウィルス被害も発生しています。今一度このような重大な人類の被害に関して見つめ直し、考えて頂きたいと思います。その上で皆様の貴重なご協力をお願いいたします。



次期への準備始まる

次期部長・事業主任研修会開催

東日本区次期部長・事業主任研修会が、10月31日(土)、東京YMCA東陽町センターにおいて、LT委員を含む28名の参加者で開催されました。

渡辺理事による、東日本区とアジア国際の現況報告に続き、利根川次期理事により次年度に向けての方針の説明がありました。その後、宮内文献・組織検討委員長から、「部の活性化」について、現在、同委員会で検討中の項目を中心に発題がありました。午後からは、次期部長と次期事業主任のグループに分かれて、それぞれの経験者からの体験談や、LT委員から準備についての心構え等の講義がありました。最後に全体で意見交換・質疑応答が活発に行われ、いよいよ次期への準備がスタートしました。(区書記:仙洞田安宏)





東新部部会

テーマは「野尻学荘」

10月10日(土)、東新部(伊丹一之部長)の部会が東京YMCA東陽町センターにおいて開催されました。

第1部では、各事業主査のアピールや前年度の表彰などがあり、第2部はホストクラブの東京むかでクラブと縁のある「野尻学荘」の今と思い出が、野尻学荘関係者によって紹介されました。

懇親会では、むかでクラブとDBCの神戸ポートクラブの大野勉さんのリードでキャンプソングを皆で歌うなど、全体を通してキャンプをテーマにした手作り感溢れるプログラムでした。参加者は88名でした。



あずさ部部会

感動の記念講演

あずさ部(標克明部長)の部会が10月18日(日)、甲府市の山梨県庁防災新館とホテル談露館で開催されました。第1部では、事業主査が事業主任とともに担当事業をアピールした他、前年度の国際関係表彰として、ブースター賞(東京サンライズ・小山憲彦さん)とエルマークロー賞(富士五湖・望月勉さん)が田中直前理事から伝達されました。第2部の記念講演では、「モノづくりを通しての国際貢献」と題して、アジア・アフリカ等対地雷除去活動を行っている雨宮清氏の感動的なお話でした。会場を移しての懇親会では、ホストクラブ秋山会長の甲州弁での歓迎の挨拶に始まり、甲州ワインを片手に懇親を深めました。参加者は93人でした。



新しいYMCA 設立を願って

～松本クラブで卓話

日本 YMCA 同盟総主事 島田 茂

10月10日(土)、渡辺隆理事から声をかけていただき、松本ワイズメンズクラブでお話をさせて頂く機会を頂きました。当日は、前東山荘所長の大和田浩二(日本YMCA同盟研究所所長)、大澤英二山梨YMCA理事長(山梨YMCA名誉主事)、露木淳司山梨YMCA総主事の4名で出席させていただきました。また、現在長野ワイズメンズクラブのメンバーで、元山梨・横浜両YMCAの職員であった湯田勝彦さんも出席されました。

今回この機会を与えていただいた背景には、渡辺理事の「原点に立って、未来にステップ」というテーマに基づいた、YMCAの無い県にYMCA運動を創設しようという熱い思いと決意があります。YMCAを支えることを通して青少年の全人的な育成と世界の平和をつくるというワイズの理念を実現するために、YMCAの無い地域でワイズが先にチャーターされ、YMCA創設を願う祈りと取り組みがなされてきました。

現在日本の都市YMCAとして35番目に設立された鹿児島YMCAは、2010年に設立されましたが、それに先立ち鹿児島ワイズは、20年前にチャーターされ、YMCA創設のために取り組んできました。松本ワイズは、チャーターされてから既に27年となり、YMCA設立の願

いは、まだ果たされていません。

今回の卓話では、世界と日本YMCAの現況と方針・計画、オールジャパンYMCA中期計画、そして、東山荘の再開発等に加えて、質疑を通してYMCA設立に関する視点をお話しさせていただきました。

YMCAがキリスト教青年運動として、170年を超える歴史と世界119ヶ国5,800万人を有する団体として広がっていますが、その根幹には揺るぎないキリスト教の基盤があります。日本では、クリスチャンの人口が少なく、YMCA運動を推進するクリスチャンのリーダーシップを確保することは困難がありますが、長野県全域、特に、ワイズのある松本市と長野市を中心に、一つのYMCAを創設する方向で検討することが望ましいということが話されました。

新しいYMCAの設立は近隣のYMCAの協力無くては難しく、松本・長野ワイズのスポンサークラブである甲府ワイズが支えている山梨YMCA、同盟、そして、ワイズメンズクラブ東日本区との協働で、両ワイズと共にYMCA設立を実現していくための計画を練る必要があります。来年は、東日本区大会が長野で開催されます。この機会にYMCA設立の道が開かれることを願い、一歩でも前進できるように努力したいと思います。

**国際
交流**

事業通信

国際・交流事業主任
柳澤 岳(松本)

2015-16年度国際TOFプロジェクトが決まりました。皆様からのTOF献金が以下のように使われています。

●アジア:「APAYとYMCAシンガポール・ベータ、ミャンマー・カチン 麻薬撲滅プロジェクト」

・麻薬を撲滅させるプログラム活動、職業訓練とカウンセリング活動

●ヨーロッパ:「東イエルサレムYMCAとスウェーデン地区、YMCA若者の可能性を引き出すプロジェクト」

・リーダーシップと活力増進プログラム、劇、ダンス、絵画教室など創造プログラム、スポーツを通してのチームワーク活動、ユースクラブ活動

●中南米:「モンテビデオYMCAとYSCモンテビデオ教育格差による社会的弱者を支援する取り組み」

・低所得層家庭の児童に対する、精神的・身体的健康を取り戻す活動

●インド:「YMCAフォートコチとYMC西コチン女性への職業訓練プログラムとユース・リソースセンター」

・貧困層の女性、独り身の女性、若者に通常の社会生活ができるように活動をする。

●エクアドル:「YMCAキトとYMCキト技術訓練学校への支援」

・劣悪な環境の中で生活を送らざるを得ない児童・障害者及びその家族に自由に遊べて楽しめ、かつ教育活動を行えるスペースを確保して活動

●インド:「ケララ州YMCAアイラプラムとYMCアイラプラム自活を通してユースと女性の活力向上に取り組む」

・“最貧困層”に属する方々に、技能訓練を与えて職につけるよう教育・指導してあげて、そこから収入を得られるようにしています。

**部
ing**

ユース

北海道部のユース事業

北海道部ユース事業主査
中田 千鶴(札幌)

〈北海道部ユース事業主査・中田千鶴さんからの投稿です〉

北海道部のユース事業はYMCAに集うユース・ボランティア・リーダーをYVLF、IYCに派遣することを中心に活動しようと思います。具体的な活動計画は次の通りです。

1. YMCAと常に密接な連携を保ち、来期の山中湖でのYVLF、台北でのIYC(国際ユース・コンボケーション)に国際的な活動に興味と意欲を持っているユースを派遣したいと思います。
2. 単に英語ができるだけでなく、外国の青年の質問に答えることができるように、日本の歴史、社会、文化、生活、習慣、宗教などについての知識を持って参加するよう望みます。

3. 終了後はただ「楽しかったです」だけでなく、きちんと報告書を提出してもらいます。自分の経験を文字に記録し、振り返ることは、ワイズに対する義務ではなく、自分の成長のために必要なプロセスであることを知ってもらいます。

4. ワイズメンズクラブの例会で報告の卓話を行ってもらいます。札幌、北見、帯広の全4クラブで行ってもらえるように日程の調整、旅費・宿泊費の支援を行います。

5. 青年たちの卓話を通して、ワイズメンに自分たちの支援金がユースを育てることに役立っていること、会員一人一人がユースを育てることに責任と義務があることを理解してもらいます。

6. 同期の参加者だけでなく、以前の参加者なども含めた縦の組織も作り、交流を続け、将来のワイズ運動の担い手として育てていけるようにします。

7. さらに意欲のある青年にはYEETP、STEPなどを斡旋する努力をします。

NEWS

金沢八景 10周年を祝う会

横浜とつかクラブ 加藤 利榮

すっかり秋も深まった10月24日(土)17時から、10年前にチャーターナイトを行った会場の直ぐお隣の横浜ベイ・シエラトンホテルにおいて、金沢八景クラブ(門松久子会長)の設立10周年を祝う会が催されました。

会場には60名ほどのワイズ関係者のほか、クラブが毎年関わっている地元体育協会の代表や“芸能祭り”の皆さんも招待されて全員指定された席に着き、八景らしい華やいだムードのうちに開会点鐘を迎えました。

冒頭、斉唱したワイズソング・信条では、ひと昔となっ

た八景の皆さんには 格別の感慨がうかがわれました。

渡辺隆区理事、今城高之湘南・沖縄部部長やお客様代表の祝辞と峯尾舜10周年実行委員長の謝辞などがあって第一部を終わり、引き続き第二部の祝宴に移り、利根川恵子次期理事からお祝いの言葉を頂いた後、乾杯は浅見隆夫元区理事を中にクラブの設立に関わった浦出昭吉ワイズと私も前に出て共に祝杯を挙げました。十分な飲み物と次々と運ばれるお料理に日ごろの交わりがどっと湧き起こった感じで、旧交を温め合い10年の思い出に花を咲かせ、会場はお祝いムード一色に溢れました。20時をまわるところ閉会、お互いご挨拶を交わし 熱気冷めやらぬ会場を後にしました。



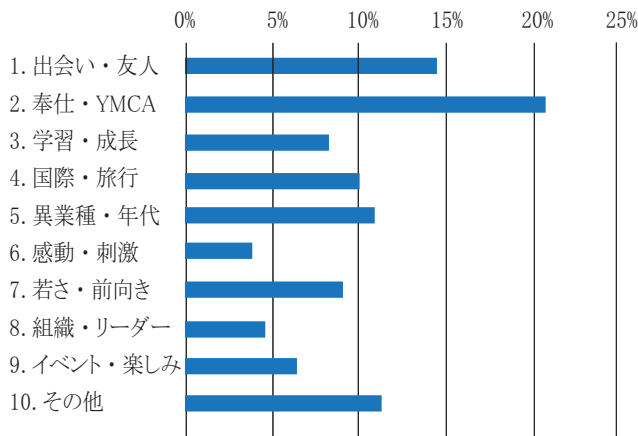
東新部「ワイズの良さ」 についてのアンケート

東新部部长 伊丹 一之 (東京むかで)

東新部の部長主題は「ワイズの良さを発信しよう」としましたが、それでは東新部の皆様はどのようなことに「ワイズの良さ」を感じているのかを知りたいと思い、7月の部長公式訪問時にアンケートを取りました。

「ワイズの良さ」については一人5項目、「ワイズの良くない点」についても2項目を書きいただきましたところ、「良さ」については230項目、「良くない点」には74項目の回答を得ました。その回答を見ながら、「ワイズの良さ」を10グループに分類しました。その結果が下のグラフです。

「ワイズの良さ」東新部全体

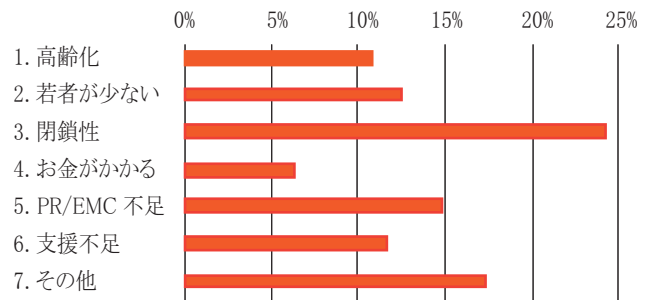


「2.奉仕、YMCA」がトップになっているのは、ワイズとしてあるべき姿と言えましょう。次に「1.出会い、友人」と「5.異業種、年代」が続きますが、年代を越えて異業種の方との出会いがある、というようにまとめれば、こちらがトップともいえます。

次の「4.国際、旅行」は、ワイズの国際性と国際大会やアジア大会への旅行が楽しめること。その次の「7.若さ、前向き」は、YMCAとの交わり、IT化率の高さなどが反映されたものでしょう。

「3.学習、成長」は、若いうちからワイズに入ることのメリットを反映。「6.感動、刺激」のランクは低いですが、これからはもっと高めていきたいキーワードだと思います。「ワイズの良くない点」については、7グループに分類、下のグラフになりました。考察は皆様にお任せします。

「ワイズの良くない点」東新部全体



部内クラブ毎のグラフも作って、クラブにフィードバックしましたが、クラブの特徴が出たように思います。この結果を基に、「ワイズの良さを発信」する一年にしたいと思います。

会員 増強

事業通信 池田 直文 (熱海)
会員増強事業主任

▼10月の新入会者紹介

10月は5人の入会がありました。入会のきっかけは、様々です。参考になるかも知れません。

☆菅野秋男さん(東京ひがし)—青少年の健全な育成のために、私たち大人は今何が出来るか常に考えていた折に、YMCAをサポートするワイズメンズクラブの話聞き入会を決意されました。(東京ひがし:金丸満雄)

☆東 裕二さん(所沢)—昨年チャリティーランで、所沢クラブのメンバーが次々負傷し、代走者になっていただきました。以来、何度か例会にも参加していただき、埼玉3クラブ合同例会で、入会宣言をしてくださいました。39才、所沢クラブ最年少です。(所沢:大澤和子)

☆大高 治さん(横浜)—2010年の横浜国際大会で、市民ボランティアとして交通委員会(バスツアー)に参加頂き、その時私が責任者として関わったのがご縁で、今年になって横浜YMCA(関内)を訪ねて頂き、ワイズへの加入を希望されました。(横浜:高田一彦)

☆大塚一義さん(厚木)—高校の体育科教員として3年間勤務したのち物流に携わって来られ、貸し切りバス会社を設立。ずっとバスケットボールに関係し、子供たちの育成について、何か活動できないかと考えておられます。厚木の東日本区大会で文化会館からホテルまでピストン輸送をしていただいた縁で入会となりました。(厚木:堀田哲郎)

☆小石川富美江さん(熱海)—市内で飲食店を経営、6月にご主人を亡くし、社会との関わりを求めていたところ、元々顔なじみの熱海メンバーが何人かいることから、お誘いしました。(熱海:二見康一)

▼インビテーションキャンペーン

902名でスタートした今期ですが、10月末現在で15クラブ24名の入会がありました。今期のインビテーションキャンペーンは、12月までとなっています。その後、如何に入会に繋がったかの検証を各クラブ、部の評議会などでおこなって頂きたいと思います。

後期はキャンペーンはありませんが、引き続き会員増強に力を入れて、少しでも1,000名に近づけたいと思います。